

番号	タイトル	種類 上映時間	内容
HE-1	Everyone Talks About It	カラー 28分	天候が神々の賞罰の道具と考えられていた時代から人類は天候の管理を夢みてきた。大気と人類生存の関係はどのように保たれているのか。また天候を人為的に変えることができるか。われわれの生活が気象に与える影響、天候がわれわれの現在および未来の生活に重大な影響を及ぼす。(国連 1975年)
HE-2	The Challenge	カラー 28分	国連が麻薬問題に関して製作した4本目のフィルム。タイの奥地でケシ栽培で生計をたてるメオ族を取り上げる。(国連 1976年)
HE-3	The Taming of a Flower	カラー 28分	ケシ(アヘン)はモルヒネ、アルカロイド等近代医学に不可欠な薬品を生み出す一方、ヘロインなど麻薬に密造され、その中毒患者が大きな社会問題となっている。この矛盾する二面性をもつアヘンを有効に利用するため、トルコ政府は1974年以来、国連の指導のもとに新しい栽培、監督システムを取り入れ、成功をおさめている。(国連 1976年)
HE-4	Galapagos-My Special Land	カラー 13分	チャールズ・ダーウインの進化論をうみ、世界でも珍しい動物が生息することで知られるガラパゴス諸島。1959年、国際連合はここを「人類が保護すべき島々」と宣言した。今日、6,000人の住民が生活し、年間1万7,000人の観光客が訪れる。この観光客の増加が、その微妙な生態系を危機に陥れている。40年間ここで暮らしている島民に環境の移り変わりを聞く。(国連 1983年)
HE-5	Without Borders (Part I& Part 2)	カラー 97分	Part I * インド(聖なる川ガンジスも、近年家庭からの排水による環境汚染が進んでいる。一学者が水質のデータを政府に提出、水質の管理の重要性を説く) * ブラジル(アマゾンの開発は深刻な環境破壊をおこしている。昔ながらの生活をおくるインディオの人々が熱帯林の伐採による環境破壊を公聴会で告発) Part II * モザンビーク(ザンベジ川にはまだアフリカの大自然が残されていて、野生動物が恵みをもとめて毎日集まってくる。一村落の文化とこの川との関わりを語る) * エジプト(アスワンハイダムにはそこに住む人々に灌漑農業による作物の栽培を促進させ、市場で販売することにより生活に進展がみられた) * アメリカ(ミシシッピ川沿いに重工業地帯が広がる。工場からの廃液により森林が枯れ始め、近くの住民が廃液や川の土壌を検査して自然保護を訴える) (UNFPA 1989年)
HE-6	Our Planet Earth (N-25)	カラー 22分	20年前に宇宙飛行士が見た地球は蒼く、神秘的な美しさを秘めたものであった。今地球は熱帯林の破壊で赤茶けた土砂は川に流れ出し、開発のためアマゾンの原生林を焼く煙は宇宙からでもはっきり見える。(国連 1990年)
HE-7	High Hopes (N-28)	カラー 27分	全世界のほとんどの国が麻薬の乱用、不正取引の危機に見舞われている。コカの木を栽培しなければ生活の出来ない農民に代替作物を奨励、ニューヨークのサウスブロンクスに住む麻薬中毒から立ち直ろうとする若者たちを取り上げる。(国連 1991年)

番号	タイトル	種類 上映時間	内容
HE-8	Up Against Nature (N-29)	カラー 27分	国連は1990年代を「国際防災の10年」に指定。毎年洪水に見舞われるバングラデシュでは避難用シェルターの建設、火山国コロンビアではハザードマップを製作し火山噴火による土石流の方向を正しく理解させ、自然災害による人命損失、財産の損害を減少させることを目的としている。(国連 1991年)
HE-9	Chernobyl Recovery A Blueprint for International Co-operation	カラー 15分	1986年ウクライナのチェリノブイリ原子力発電所の第4原子炉が大爆発をおこし、放射能汚染地域はソ連と全ヨーロッパに広がった。爆発の状況、防具に身につけず事故処理にたずさわった人たちに癌患者が続発、これを教訓とし、同種の事故がおきた場合の世界の協力体制のあり方を探る。(国連 1991年)
HE-10	Earth Summit TV Spots	カラー 30分	1992年6月3日から14日まで開催された「地球サミット」用テレビスポット(メキシコ・シティの大気汚染、環境親善大使オリビア・ニュートンジョン出演)(国連 1992年)
HE-11	About the UN : Environment and Development (N-33)	カラー 20分	国連環境開発会議(UNCED)がブラジルのリオデジャネイロで1992年6月3日から14日まで開催された。オリビア・ニュートンジョンがタイの再植林の様子、ポーランドとバルト海沿岸の深刻な海洋汚染を通して環境保護を訴え、この会議の重要性を説明。(国連 1992年)
HE-12	NGUYAMAM	カラー 5分	環境問題をあつかった子ども向けアニメーション・ビデオ。お菓子衛星パカスカスはジャム、パン、ミルクワイン等でできている。住人のニャンニャン人は朝から晩まで食べてばかり。限りある資源を大切にしないと衛星そのものがなくなってしまうことを警告されるが耳をかさない。やさしい英語ときれいな画像がかわいらしい。(国連 1992年)
HE-13	The Earth Summit	カラー 29分	1992年6月ブラジルのリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)のビデオ。100ヶ国以上から首相級が、178ヶ国から外交団、環境専門家、NGO、メディアの人たちが集まり地球レベルで環境破壊等について話し合い、包括的な環境問題に関する協定に署名した。(国連 1992年)
HE-14	Mission to Planet Earth	カラー 29分	宇宙、それは人類にとって果てしなく広がる魅力的な空間、人はそこに自由、未知への想像をかきたててきた。1957年ソ連は人工衛星・スプートニクを打ち上げ、人類は自分たちの地球の姿を見ることが出来た。人工衛星の発達にともない地球の資源や環境の詳しいデータが手に入り恩恵をこうむる反面、各国のプライバシーの侵害という新たな問題が発生している。(国連 1993年)
HE-15	No.1 Taking the Water	カラー 30分	世界の有数な川や湿地帯も工場から出る廃液で汚染され、安全な飲料水の確保も難しくなっている。チェコスロバキアのガベイクダム建設による環境破壊と、チュニジアのイチケル国立公園の汚染された湖の様子を紹介。(国連 1993年)
	No.2 The Monk, the Trees and the Concrete	カラー 30分	ここ数十年間で熱帯林は半分近くが破壊され、今、行動をおこさなければそう遠くない時期に熱帯林は消滅するだろうと言われている。熱帯木材の消費国ナンバーワンの日本の建築現場とタイの僧侶とボランティアによる再植林を紹介する。(国連 1993年)

番号	タイトル	種類 上映時間	内容
No.3 Smogbusters		カラー 30分	ブラジルのクバタオは鉄工所からはき出される排煙で大気汚染が激しく、工場近くの住人は呼吸器系統の病気で苦しんでいる。公害をなくす必要性を企業家が認識し、公害の発生原因となっている設備の改善に積極的に参加。アメリカのカリフォルニア州は排気ガス(特にトラック)で大気汚染のもっとも著しい州の一つである。環境団体は公聴会でその実態を報告。排気ガスの出ない電気自動車、ソーラーカー、地下鉄の利用等が見直されている。(国連 1993年)
No.4 Handle with Care		カラー 30分	戦後の経済成長は人類に何をもたらしたのであろうか。毎日の生活は確かに便利になり、社会の安定や心の豊かさという面は恩恵をこうむっているが、その反面環境破壊が進み健康がむしばまれていることも事実である。ナイヤガラの瀑布に近い工業都市カナルは工場から出る有毒物質のたれ流しにより、住人のほとんどが他の場所へ引っ越しせざるを得なくなり、町はゴースタウンになってしまった。また、スカンジナビア半島に住む先住民(サーミ人)の自然とともに暮らし、必要な時に必要なものだけを得る伝統的な習慣が見直されている。(国連 1993年)
No.5 Loaves and Fishes		カラー 30分	1980年代の後半から食糧生産と人口増加のバランスがくずれ、毎年9千万人以上の人たちが食糧を求め、20億トンもの表土が流失、1億人以上が栄養の悪い状態におかれている。これらの問題解決のために一つとして根こそぎ乱獲するトロール漁業の規制もしくは廃止を、エチオピアでは近代的な遺伝子工学の伝統的な農業に応用している。(国連 1993年)
No.6 How Much Is Enough		カラー 30分	無駄を省いて生活することと毎日をシンプルにおくるということは密接な関係にある。地球の資源と収容能力にも限りがある。開発途上国は人口増加によりますます貧困に陥り、先進国は少子化で消費生活を享受している。アメリカのシンプルライフの勧めとリサイクル運動、メキシコは人口増加の緩和のため家族計画の必要性と避妊具の使用を若者に教える。(国連 1993年)
HE-16	The Broken Flight	カラー 28分	カザフスタンはかつて雄大な自然環境に恵まれた素晴らしい場所であった。この地域は1949年旧ソ連時代からの数百回におよぶ核実験で、その跡には核湖ができ、子どもたちは被爆したような健康悪化を訴えている。現在は経済優先政策で工場から吐き出される排煙により住民のほとんどが呼吸器系等をやられている。1992年セネガルで起きたアンモニア化学工場の大爆発は、何千人もの労働者の命を奪い、深刻な環境破壊を起こしている。ベネズエラの先住民ワラ族は熱帯林を生活の場としてきたが、開発の名のもとに環境が破壊され、行き場のない彼らは安い労働力の担い手として低賃金で働かされている。(国連 1994年)

番号	タイトル	種類 上映時間	内容
HE-17	Small Islands, Big Issues	カラー 28分	開発途上国のなかでも特に島嶼諸国は今、より良い未来づくりの闘いの最前線にいる。近年の環境悪化が著しく、私たちに生活習慣の見直しと環境に対する考え方の変化を促している。1994年5月バルバドス島で開催された国連島嶼諸国会議には40数ヶ国の代表が集まり、気候変動による自然破壊、環境汚染、大気汚染、廃棄物処理方法、限られた飲料水の使用等々の共通の問題に対する解決の糸口を討議した。このビデオは近年大型のサイクロンの襲来で、全家屋の80%が倒壊した西サモア諸島、排出されるゴミの処理対策と飲料水を輸入に頼るモルジブ諸島を例に取りあげている。 (国連 1994年)